

金融リテラシー 「投資・資産運用」編

本題に入る前に、改めて“金融リテラシー”が何者であるかを再確認しよう。この部分に関しては、何度もしつこいくらいに言い続けようと思う。金融リテラシーとは、「日々の家計管理や資産形成、金融取引や保険、金利やローンの知識など、お金と上手につき合うために必要な知識や判断力」のことであり“自らが考え、判断し、行動する能力”と位置付けたい。単に知識だけではなく、その情報が自身の暮らしにどう関わり、どんな効果をもたらす、それを実現するためには何をしなければならないかを理解し、実際に行動に繋げなければ意味を持たない。「情報を持つ者と持たない者」「行動する者とそうでない者」の格差は無限度に広がることを分かっていたいただきたい。

情報化社会の中で、各種メディアを通じた情報の入手はしやすくなってはいるものの、溢れる情報の中から自身にとって有益なものを選び出すのは、逆に難しくなっているのかもしれない。仮に、正確な情報を入手し、その効果を確認したとしても、行動に繋がらなければ絵に描いた餅に過ぎない。行動に至らな

い方の多くは、良いのは分かっているけど「手続きが面倒くさそう…」など、出来ない・やらない理由が出てくる。「良いのは分かっているんだけど…」という言葉は耳にタコが出来るほど、何度聞いたことか！それって実は、本来的な“金融リテラシー”が身に付いていないのかもしれない。要は分かっているんだよなあ…。行動することによって得られる“利益や効果の大きさ”を知れば、人は必然的に動くものだし、動かすにはいられないのである。“金融リテラシー”恐るべし…。

今回は、「投資・資産運用」を取り上げることとするが、秋田県民の「投資・資産運用」の現状はというと、株式・投資信託の保有率も、積立NISA・iDeCoの加入率も、全国平均を大きく下回っているのが現状だ。それが良い悪いということではないが、それぞれの環境に合わせた投資商品の組み合わせ、一定の運用効果をもたらすことも事実だ。金融リテラシーを高め、資産運用を行うことで、秋田県民の“運用商品の保有率・経験が少ない”を返上しようではないか…。

Vol. 155

知恵袋

生活

生活に
何かと役立つ
連載コラム

つぶやきがんちゃん

今月も
つぶやき
ます!

つぶやき
がんちゃん



齋藤 廣勝
(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

「投資」と「貯蓄」、これは目的によって使い分けるものであり、どちらが良い悪いというものではない。銀行などに預けている普通預金などの貯蓄は、基本的に「自由に引き出せるお金（流動性が高い）」であり、日常の生活資金な

「投資と貯蓄」は、短期的な価格変動から利益を得ようとするもので、不確実性があるもの、当たられば短期間でも大きな利益を上げられる可能性があるものと言える。投資と違い、安定的な利益を上げ続けることは難しいが、これ自体が不適切なものという訳ではなく、一つの手法と言える。

「投資」と「貯蓄」、これは目的によって使い分けるものであり、どちらが良い悪いというものではない。銀行などに預けている普通預金などの貯蓄は、基本的に「自由に引き出せるお金（流動性が高い）」であり、日常の生活資金な

「投資と貯蓄」は、短期的な価格変動から利益を得ようとするもので、不確実性があるもの、当たられば短期間でも大きな利益を上げられる可能性があるものと言える。投資と違い、安定的な利益を上げ続けることは難しいが、これ自体が不適切なものという訳ではなく、一つの手法と言える。

「投資と貯蓄」は、短期的な価格変動から利益を得ようとするもので、不確実性があるもの、当たられば短期間でも大きな利益を上げられる可能性があるものと言える。投資と違い、安定的な利益を上げ続けることは難しいが、これ自体が不適切なものという訳ではなく、一つの手法と言える。

投資ってなあに？
将来の目的や目標を達成するためにお金を準備するには、「資産形成」を行っていくことになるが、「資産形成」の方法を大別すると、「貯蓄」と「投資」の2つに分類される。「貯蓄」とはお金を蓄えることであり、銀行の預金などがこれに当たる。一方、「投資」は利益を見込んでお金を出すことで、株式や投資信託などの購入などがこの「投資」に当たる。投資は怖い、バクチみたいなもの、と思っ

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談
メニュー

- 家計の総合診断(ライフプラン)
- 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- 住宅取得、住宅ローンの見直し
- 子どもの教育資金計画
- 年金・老後資金計画

相談料は
無料です!!

お気軽にご相談ください。

株式会社
total life support 募集代理店 **トータルライフサポート**

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間/9:30~18:00(土・日・祝9:30~17:00)
●定休日/水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

● 紳士服のコナカ
● すずきクリニック ● エネオス
● 当店
● マクドナルド
● 山王十路
● 新国道
● 洋館の青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

ど、すぐに必要となる可能性のある一定金額のお金は、自由に引き出すことのできる「貯蓄」の形で、持っておくことが大切だ。一方、教育や老後資金など、今すぐに必要にならなくても将来のために増やしていきたいお金は、「株式」や「投資信託」などを利用し、長期間をかけた「投資」の方が相応しいと言える。しかし、「投資」の形で持っている資産を現金に換えるためには、資産の売却という一定の手順を踏む必要が出てくる（流動性が低い）。また、値上がりや利益の分配などを通じて、預貯金よりも利益を得られる可能性が高いという性質の反面、価格の変動もあることから、ある程度先を見越した目的のために活用するのに向いている。

「リスク」とは

投資には「リスク」があるが、「リスク」は一般的に「危険」「危険度」や「失敗」「損失」と解釈されているが、投資におけるリスクは単に「危険なもの」という解釈ではない。投資の世界では価格の振れ幅のことを「リスク」といい、一般的に「標準偏差」という数値で表される。この数値が大きければ振れ幅が大きく、小さければ振れ幅も小さい。このように、「リスク」は投資資産の価格変動の大きさ（振れ幅）を表し、危険なもの・怖いものを指すのではなく、価格の値上がり値下がり「可能性」のことを意味するものだ。投資性商品の説明には、必ず「元本を保証するものではありません」との

文言が入っているが、これに過剰

に反応し、「減る可能性があるくらいだったら増えなくても良い」とばかりに、「リスク」の態様も理解しないまま、食わず嫌いで収益を得る可能性を逃している方がどれ程多い事か。本当にもったいない事だ。『リスク』の種類にも様々なものがあり、「リスク（振れ幅）」の度合いが大きいものもあれば小さいものもある。どれを選ぶかの判断は、各人が持つ知識・情報、資金の目的や運用できる期間などを総合的に勘案し選択すれば良いことだ。いずれにせよ、「リスク（振れ幅）」の種類やその性格を理解し、上手に付き合うことが必要だ。

投資における「リスク」とは

一言で「リスク」といっても、「リスク」にはさまざまな種類があり、それがどのような内容なのか、先ずはそれを正しく理解しておくことが重要だ。投資における「リスク」の代表的な例を見てみよう。
(左図参照)

リスクの種類

株価変動 リスク	株（株式）の価格が上下する可能性のこと。株価（株式の価格）の変動は、日本はもちろん、世界各国の景気や経済の動向、政治や経済の情勢のほか、株式を発行している企業の業績など、さまざまな要因によって起こる。
信用リスク （デフォルト・ リスク）	株式や国債・債券などを発行している国や企業が、財政難や経営不振などを理由に投資家から預かっていたお金（元本）や利息の一部または全部を返済する能力がなくなる可能性。
流動性 リスク	市場（マーケット）で金融商品を売りたいときに売却できなかったり、希望する価格が付かなかったりする可能性。
金利変動 リスク	金利の変動によって、債券の市場価格が変動する可能性のこと。金利が上昇すると、債券価格は下落し、金利が低下すると、債券価格は上昇する。
為替変動 リスク	異なる通貨の為替相場の動きにより、外貨建ての円換算による金融商品の価値が変動する可能性のこと。

投資の格言

私が好きな投資の格言の代表的な3つを紹介しよう。どれもが基本中の基本となるものである。
【遠くのもの避けよ】

ここでいう「遠くのもの」とは距離的なものではなく、自分があまり得意としない分野や、よく知らない銘柄のことを言う。つまりは、よく分からないものには手を出すな、という戒めの意味も持っている。

【株を買うより時を買え】

この格言の「株」とは銘柄のことを言い、「時」とは売買のタイミングのことをさす。つまりは、銘柄を選ぶ以上に売り買いをするタイミングの見極めが重要であるということだ。

【卵は1つのカゴに盛るな】

卵を1つのカゴに盛ると、そのカゴを落とした場合には、全部の卵が割れてしまうかもしれないが、複数のカゴに分けて卵を盛っておけば、そのうちの1つのカゴを落としてカゴの卵が割れてしまったとしても、他のカゴの卵は影響を受けずに済むということだ。

響を受けずに済むということだ。

要するに、特定の商品だけに投資をするのではなく、複数の商品に投資を行い、リスクを分散させた方がよいという教えだ。要するに分散投資を意味している。

【先ずは始めたい資産運用】

資産運用商品に絶対と言えるものはないが、声を大にして言いたいのがiDeCo（個人型確定拠出年金）とNISA（少額投資非課税制度）だ。どちらも運用収益も然ることながら、他の商品には無い税制上の優遇措置があることだ。

【「iDeCo」3つの税制優遇制度】

- ①掛金が全額所得控除
- ②確定拠出年金制度内での運用益が非課税
- ③受給時に所得控除（退職所得控除・公的年金控除）

【NISAの税制優遇制度】

売却益と配当への税率が一定の制限の元で非課税
それぞれの特徴についての説明は、この誌面では説明しきれないが、比較的投資の初心者でもとつきやすいし、投資の入門としてもお勧めしたい。

【目的・目標に合わせた資産運用を】

投資リスクの種類は前述した通りで、その大きさも大小様々だ。目標をしっかりと見据えた商品選びをすれば、決して危険なものでも怖いものでもない。豊かな将来を築く上でも、投資を生活の一部に取り込んでいただきたいものだ。

【来月号は】

金融リテラシー編を総括し、そもそも論として考えてみることをする。